

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和7年1月1日～令和7年6月1日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	105	23	4	50	45	122
令 和 6 年	98	19	0	38	55	112
前 年 同 期 比	7	4	4	12	-10	10

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	15	14.3%	4	0	7	6	17
	後立山	19	18.1%	4	1	9	12	26
	その他	19	18.1%	0	0	14	8	22
計		53	50.5%	8	1	30	26	65
中央アルプス		9	8.6%	3	1	3	3	10
南アルプス		2	1.9%	0	1	1	0	2
八ヶ岳連峰		13	12.4%	3	0	8	3	14
その他の山岳		28	26.7%	9	1	8	13	31
計		105		23	4	50	45	122

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	38	36.2%	13	0	27	0	40
転 倒	19	18.1%	1	0	18	0	19
病 気	5	4.8%	2	0	0	3	5
道 迷 い	18	17.1%	0	0	0	26	26
落 石	1	1.0%	0	0	1	0	1
雪 崩	2	1.9%	1	0	1	1	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	3	2.9%	0	0	0	4	4
不明・他	19	18.1%	6	4	3	11	24
計	105		23	4	50	45	122

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	3	3	25 26.3%	0	0	0	0	0	9 33.3%	3	34 27.9%
20代	0	0	1	9	10		0	0	1	4	5		15	
30代	3	1	3	5	12		0	0	2	2	4		16	
40代	4	1	8	3	16	40 42.1%	1	0	2	1	4	12 44.4%	20	52 42.6%
50代	6	0	9	9	24		0	0	8	0	8		32	
60代	4	1	7	6	18	30 31.6%	0	0	5	0	5	6 22.2%	23	36 29.5%
70以上	5	1	3	3	12		0	0	1	0	1		13	
計	22	4	31	38	95		1	0	19	7	27		122	
比 率	77.9%						22.1%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（5/26～6/1）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
行方不明者の発見	戸隠連峰	男	39	死亡	転落	単独で戸隠連峰に入山したまま、行方不明となっていたもの（1/5認知）。何らかの原因で、転落（5/19遺体で発見）
	雨飾山	男	52	死亡	不明	単独で雨飾山に入山したまま、5/19から行方不明となっていたもの。何らかの原因で、行動不能（5/26遺体で発見）
5月26日	北アルプス 奥穂高岳	女	50	負傷	滑落	単独で涸沢から奥穂高岳に向けて登山中、滑落、負傷
5月27日	北アルプス 霞沢岳	男	30	無事救出	道迷い	単独で霞沢岳に入山し、道に迷い、行動不能
5月28日	北アルプス 蝶ヶ岳	女	79	負傷	転倒	2人パーティで横尾から蝶ヶ岳に向けて登山中、転倒、負傷
5月28日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	84	無事救出	疲労	上記遭難者の同行者。疲労により行動不能
5月29日	守屋山	男	81	無事救出	疲労	2人パーティで守屋山から下山中、疲労により行動不能
5月30日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	49	負傷	滑落	単独で蝶ヶ岳から下山中、滑落、負傷
6月1日	北アルプス 北穂高岳	男	77	負傷	滑落	単独で北穂高岳から下山中、滑落、負傷
6月1日	北アルプス 槍ヶ岳	女	30	負傷	滑落	2人パーティで槍ヶ岳から東鎌尾根を下山中、滑落、負傷
6月1日	北アルプス 槍ヶ岳	男	40	無事救出	その他	上記遭難者の同行者。技量不足により行動不能。

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、9件の山岳遭難が発生しました。昨年の発生件数を上回る早さで前年同期比+7件となっています。北アルプスなどの標高の高い山域では、いまだ多くの残雪がありピッケルやアイゼンなどは必須装備です。

5月27日に発生した北アルプス霞沢岳における道迷い遭難は、3日後の29日に捜索中の消防防災ヘリに発見救助されました。遭難者は、チェーンスパイクのみでピッケルは所持しておらず、残雪期の登山装備としては準備不足の感が否めませんが、アクシデントに備えた装備（防寒着、ガスバーナー、レスキューシート、食料）の携行やサバイバルの知識、臨機応変に落ち着いて判断できていたことが生還の要因となりました。特に、沢の水が確保できたことや無闇に動かず体力を温存し、持っていた装備をフル活用して諦めずに救助を待ち続けたことが好判断でした。

救助後に遭難者から、
『スマホの地図アプリだけでなく、紙地図やコンパスの携行は必要。登山講習や雑誌などで学んだことが生かせたので、山を歩くための知識や技術の大切さを実感した。登山する山に適した装備品が足りておらず、雪がそんなに多くないと思って過信してしまった。』との反省の弁がありました。

このように登山中はどんなアクシデントが待ち受けているか分かりません。装備品の携行と使い方を熟知し、山を甘く見てはいけません。登山中は、冷静な判断と何よりも安全を最優先した行動をお願いします。